

[平成18年度設置]

計画の区分：大学の設置

了徳寺大学

設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 了徳寺大学
平成21年5月1日現在

目 次

1	調査対象大学等の概要等	1
2	授業科目の概要	
	〈芸術学部美術学科〉（旧・日本文化芸術学部日本文化芸術学科）	省略
	〈健康科学部理学療法学科〉	省略
3	施設・設備の整備状況、経費	28
4	既設大学等の状況	非該当
5	教員組織の状況	
	〈日本文化芸術学部日本文化芸術学科〉（旧・日本文化芸術学部日本文化芸術学科）	省略
	〈健康科学部理学療法学科〉	省略
6	留意事項に対する履行状況等	62
7	その他全般的事項	
	〈日本文化芸術学部日本文化芸術学科〉（旧・日本文化芸術学部日本文化芸術学科）	66
	〈健康科学部理学療法学科〉	69
別紙	就任契約書・誓約書・教職員定年規程・教員任期規程	省略
別添 1	教職員研修に関する規程	77
別添 2	〈健康科学部理学療法学科〉 新旧対照表	78
別添 3	設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見	82

大学等設置に係る設置計画履行状況報告書

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学 校 法 人 了 德 寺 大 学

(2) 大 学 名

了 德 寺 大 学

(3) 大学本部の位置

〒279-8567
千葉県浦安市明海五丁目8番1号
(千葉県浦安市明海23番から住居表示の変更(19))

(4) 管理運営組織

職 名	認 可 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	リョウトクジ ケンジ 了德寺 健二 (平成17年12月)		
学 長	ヒラマツ クニオ 平松 邦夫 (画号 平松 礼二) (平成18年4月)	マサヤマ シゲル 増山 茂 (平成19年10月)	平松邦夫教授が健康上の理由により辞任したため(20)
副 学 長	ヤマノウチ ヒサアキ 山内 久明 (平成18年4月)		
芸 術 学 部 長	タケダ アツシ 武田 厚 (平成18年4月)	サカグチ クニオ 坂口 國男 (平成20年4月)	日本文化芸術学部長から名称変更(19) 武田厚教授が健康上の理由により辞任したため(20)
健 康 科 学 部 長	マサヤマ シゲル 増山 茂 (平成18年4月)	ミカタ アツオ 三方 淳男 (平成19年10月)	増山茂教授が学長に就任したため(20)
		アイカワ エイゾウ 相川 英三 (平成21年4月)	三方淳男教授が健康上の理由により辞任したため(21)
美 術 学 科 長		サクライ タカヨシ 櫻井 孝美 (平成18年4月)	申請時に決定していなかったため(18) 日本文化芸術学科長から名称変更(19)
		シマザキ ヒロシ 島崎 浩 (平成20年4月)	櫻井孝美教授が健康上の理由により辞任したため(20)
理学療法 学 科 長	イソザキ コウジ 磯崎 弘司 (平成18年4月)		

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の 名称 (学位)	認 可 時 の 計 画				備 考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
芸術学部 美術学科 学士 (芸術学)	4 年	120 人	0 年次 人	480 人	日本文化芸術学部日本文化芸術学科から名称変更 (19)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

報告年度 区 分	平成 1 8 年度	平成 1 9 年度	平成 2 0 年度	平成 2 1 年度	平均入学定員 超 過 率	備 考
A 入学定員	120 人	(ー) 40 人	(ー) 40 人	(ー) 40 人	0.65倍	平成19年4月 入学定員の減 (変更前120人 →40人) (19)
志願者数	27	(ー) 48	(1) 49	(1) 47		
受験者数	26	(ー) 48	(1) 44	(1) 46		
合格者数	26	(ー) 42	(1) 44	(1) 44		
B 入学者数	19	(ー) 28	(1) 41	(1) 30		
入学定員超過率 B / A	0.15	(ー) 0.7	(ー) 1.02	(ー) 0.75		

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

報告年度 学 年	平成 1 8 年度	平成 1 9 年度	平成 2 0 年度	平成 2 1 年度	備 考
1 年次	[0] 19	[0] 28	[0] 40	[0] 29	
2 年次		[0] 19	[0] 27	[0] 37	
3 年次			[0] 17	[0] 27	
4 年次				[0] 15	
計	[0] 19	[0] 47	[0] 84	[0] 108	

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	退学者数（a）	入学者数（b）	入学者に対する 退学者数の割合 （a/b）
平成１８年度	計 [〇 人]	計 [１ ９ 人]	[〇 %]
	うち平成１８年度入学者 〇 人	うち平成１８年度 １ ９ 人	
	(主な退学理由)		
平成１９年度	計 [３ 人]	計 [４ ７ 人]	[6. 4 %]
	うち平成１８年度入学者 ２ 人	うち平成１８年度 １ ９ 人	
	うち平成１９年度入学者 １ 人	うち平成１９年度 ２ ８ 人	
	(主な退学理由) 家庭の事情 ３ 人		
平成２０年度	計 [７ 人]	計 [８ ５ 人]	[8. 2 %]
	うち平成１８年度入学者 ２ 人	平成１８年度 １ ７ 人	
	うち平成１９年度入学者 ２ 人	平成１９年度 ２ ７ 人	
	うち平成２０年度入学者 ３ 人	平成２０年度 ４ １ 人	
	(主な退学理由) 就学意欲の低下 ３ 人、他の教育機関へ入学 １ 人、家庭の事情 １ 人 他の学科へ転科 ２ 人（健康科学部理学療法学科 １ 人、整復医療・トレーナー学科 １ 人）		
平成２１年度	計 [〇 人]	計 [１ 〇 ８ 人]	[〇 %]
	うち平成１８年度入学者 〇 人	平成１８年度 １ ５ 人	
	うち平成１９年度入学者 〇 人	平成１９年度 ２ ５ 人	
	うち平成２０年度入学者 〇 人	平成２０年度 ３ ８ 人	
	うち平成２１年度入学者 〇 人	平成２１年度 ３ 〇 人	
(主な退学理由)			

(5) - ① 調査対象学部等の名称，定員

調査対象学部等の 名称（学位）	認 可 時 の 計 画				備 考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
健康科学部 理学療法学科 学士（理学療法学）	4 年	80 人	0 年次 人	320 人	

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

報告年度 区 分	平成 1 8 年度	平成 1 9 年度	平成 2 0 年度	平成 2 1 年度	平均入学定員 超 過 率	備 考
A 入学定員	80 人	(—) 80 人	(—) 80 人	(—) 80 人	1.26倍	
志願者数	224	(—) 867	(—) 689	(—) 485		
受験者数	205	(—) 839	(—) 679	(—) 473		
合格者数	125	(—) 150	(—) 136	(—) 139		
B 入学者数	100	(—) 104	(—) 101	(—) 99		
入学定員超過率 B / A	1.25	(—) 1.3	(—) 1.26	(—) 1.23		

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

報告年度 学 年	平成 1 8 年度	平成 1 9 年度	平成 2 0 年度	平成 2 1 年度	備 考
1 年次	[0] 100	[0] 104	[0] 102	[0] 99	
2 年次		[0] 99	[0] 99	[0] 98	
3 年次			[0] 96	[0] 93	
4 年次				[0] 93	
計	[0] 100	[0] 203	[0] 297	[0] 383	

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	退学者数（a）	入学者数（b）	入学者に対する 退学者数の割合 （a/b）
平成１８年度	計 [1 人]	計 [1 0 0 人]	[1 %]
	うち平成１８年度入学者 1 人	うち平成１８年度 1 0 0 人	
	(主な退学理由) 他の教育機関への入学 1 人		
平成１９年度	計 [7 人]	計 [2 0 3 人]	[3 . 4 %]
	うち平成１８年度入学者 3 人	うち平成１８年度 9 9 人	
	うち平成１９年度入学者 4 人	うち平成１９年度 1 0 4 人	
	(主な退学理由) 他の教育機関への入学 2 人、就学意欲の低下 1 人、就職 1 人 学生個人の心身に関する事情 1 人、家庭の事情 1 人、その他 1 人		
平成２０年度	計 [1 4 人]	計 [2 9 7 人]	[4 . 7 %]
	うち平成１８年度入学者 3 人	平成１８年度 9 6 人	
	うち平成１９年度入学者 7 人	平成１９年度 1 0 0 人	
	うち平成２０年度入学者 4 人	平成２０年度 1 0 1 人	
	(主な退学理由) 他の教育機関への入学 1 0 人、就学意欲の低下 2 人、就職 1 人、家庭の事情 1 人		
平成２１年度	計 [0 人]	計 [3 8 3 人]	[0 %]
	うち平成１８年度入学者 0 人	平成１８年度 9 3 人	
	うち平成１９年度入学者 0 人	平成１９年度 9 3 人	
	うち平成２０年度入学者 0 人	平成２０年度 9 8 人	
	うち平成２１年度入学者 0 人	平成２１年度 9 9 人	
	(主な退学理由)		

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	学生の増加に伴い、駐 輪スペースが狭くなっ たため、校庭を利用 し、駐輪場を拡張 (19)			
	校舎敷地	12346.51 m ²	0 m ²	0 m ²	12346.51 m ²				
		12041.64 m ²			12041.64 m ²				
	運動場用地	3137.21 m ²	0 m ²	0 m ²	3137.21 m ²				
		3442.08 m ²			3442.08 m ²				
	小 計	15483.72 m ²	0 m ²	0 m ²	15483.72 m ²				
そ の 他	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²					
合 計		15483.72 m ²	0 m ²	0 m ²	15483.72 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		19,095.2 m ² (19,095.2 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	19,095.2 m ² (19,095.2 m ²)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	平成19年4月講義室1室 を実習室に用途変更 (19) 平成19年4月情報処理 補助職員1名を新規採 用 (19)		
		25 -26 室	5 室	20 19 室	1 室 (補助職員 1 人)	1 室 (補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		平成19年4月日本文化 芸術学部日本文化芸術 学科から名称変更 (19)		
		芸術学部 美術学科 日本文化芸術学部 日本文化芸術学科 健康科学部 理学療法学科			40 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	購入予定図書のうち和 書292冊、洋書153冊、 計445冊は品切れのた め未納。本年6月まで に納入予定 (18) 平成19年4月日本文化 芸術学部から名称変更 (19)	
		芸術学部 日本文化芸術学部 健康科学部	10,390 [1,690] (9,945 [1,537]) (10,390 [1,690])	160 [46] (160 [46])	21 [21] (21 [21])	124 (124)	7,310 (7,310)		90 (90)
	計	10,390 [1,690] (9,945 [1,537]) (10,390 [1,690])	160 [46] (160 [46])	21 [21] (21 [21])	124 (124)	7,310 (7,310)	90 (90)		
	(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		
		1886.3m ²		284席		190,000冊			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		1071.17m ²							
(8) 経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見 積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	研究備品整備用として 増額したため (19)
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	571千円 462千円	424千円	図書購入費	75,000千円	0千円 5,000千円	5,000千円	
		共 同 研 究 費 等	10,000千円	10,000千円	設備購入費	320,250千円	千円	千円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	平成19年度に継続する 雑誌及びオンライン データベースの支払い が平成19年度にずれ込 んだため (19)	
		18年度	2,250千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	千円		千円
		19年度以降	1,800千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	千円		千円
	学生納付金以外の維持方法の概要			証明手数料収入					

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (平成17年12月5日)	1. 設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	1. 設置計画のとおり4月に1年次の授業を開講し、教養教育による文化的人格の形成と専門教育による専門能力の開発を体系的に行う教育を開始した。 ^⑮ 2. 4月に教養教育センターを組織し、教養教育の体系的実施及び教育の一層の改善について恒常的継続的に取り組む体制を整備した。 ^⑮ 3. 4月に入学試験委員会を設置し、平成19年度入学者選考の実施方針等を検討中。特に、多様な選考方法により、多様な潜在能力を持った学生を集める努力をする。 ^⑮ 4. 入学試験委員会のほか次の学内委員会を設置し、教育研究活動の充実について恒常的継続的に検討する体制を作った。 ^⑮ (1) 教育及び学生生活の充実に向上を目的とした教務委員会、学生委員会、図書委員会 (2) 教育研究活動水準の向上を目指した自己点検・評価を推進する自己評価委員会 (3) 研究活動を推奨し、その充実に寄与する研究委員会 (4) 教育研究活動において地域との連携を推進するための地域連携委員会 5. 平成18年5月、芸術、健康両学部教員で構成する「芸術と健康研究会」(会長・平松礼二学長)を発足させ、「了徳寺大学ホスピタルアート実践研究」「芸術療法の癒し効果の科学的検証」など6つのプロジェクトにより研究を進めた。 ^⑮ 6. 平成21年1月、開学時より構想中であった「日本文化芸術学会」を「芸術文化研究所」として設置した。我が国の伝統芸術文化を中心として、ひろく国際的芸術学の研究、及びそれに関わる文化活動ならびに美術教育の高揚発展に貢献することを目的としている。 ^⑯	1. 設置計画に従い、研究組織として「日本文化芸術学会」及び「芸術療法研究会」を本年6月に発足させることを目途として準備中。 ^⑮ 2. 平成20年2月に芸術学部教員で構成する「日本文化芸術学会(仮称)準備会議」を開催した。平成20年度、新しい構成員により検討を継続し、年度内に発足させる予定 ^⑯

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	2. 作品保管スペースを拡張・増設することが望ましいので、適切に対応すること。（日本文化芸術学部）	作品保管室は2室（各、約80㎡）あり、1年次の現在は十分余裕がある。 ^⑮ 2年次の現在も十分余裕がある。 ^⑮ 3年次の現在も余裕がある。 ^⑯ 完成年次の現在も余裕がある。 ^⑰	学年進行に伴い不足が生じた場合のため、5階予備室2室（各、約55㎡）を作品保管庫とすることを計画している。 ^⑮
	3. 絵具等の廃液処理施設の整備について適切に対応すること。（日本文化芸術学部）	絵具等の廃液は下水道に放流せず、ドラム缶に保管して専門の業者に処理委託することとしている。 ^⑮ 実技授業の開始にあわせ、実技室内の流し台にグリストラップを設置。 ^⑮	
	4. 安全管理の科目、感染管理の科目を新設することや、老年医学を必修とし科目内容を再考することなど、教育課程の一層の充実に努めること。（健康科学部）	「老年医学」を選択科目から必修科目に変更した。科目内容については、高齢社会の進展にあつて重要となると考え、予定していた基礎知識に加え実践的、臨床的な知識をも教授することとした。 ^⑮ 3年次配当選択科目「理学療法管理経営学」の授業内容を変更し、安全管理・感染管理についての内容を追加し、必修科目へ変更した。また、配当年次は教育効果を考慮し、臨床実習直前の3年後期後半に集中で行った。 ^⑰	3年次開講に向けて「安全管理・感染管理」科目の新設を検討中。 ^⑮ 3年次配当選択科目「理学療法管理経営学」の授業内容を変更し、安全管理・感染管理についての内容を追加し、必修科目へ変更する。また、配当年次は教育効果を考慮し、臨床実習直前の4年前期に集中で行なう。平成20年6月変更書提出予定 ^⑯
	5. 早期に実践現場を体験させることが望ましいので、適切に対応すること。（健康科学部）	平成18年度に以下の事業を通じて、高齢者・幼児・児童の体力測定を実施することにより、1年次の早期から理学療法の対象となる人々にふれあい体験を行った。 (1) 平成18年9月5・6日、平成18年11月14日、平成19年3月14日、地域貢献事業として、浦安市の高齢者、要支援、要介護者に対して健康維持・増進のための体力測定を実施し、結果を地域住民にフィードバックした。学生はこの事業に参加し、日常生活動作の聞き取りと実際に体力の測定に関わった。 (2) 平成19年3月、地域貢献事業として、浦安市の幼児・児童を対象とした転倒・骨粗鬆症調査を実施した。学生はこの調査に参加し、日常生活状態の聞き取りと実際に体力の測定を行った。 (3) 「人間関係とコミュニケーション」授業内で、地域の高齢者との対談を実施し、高齢者との接点の持ち方、コミュニケーションの取り方について体験・学習した。 ^⑮ (4) 1人の学生が1年次1回、2年次1回、各半日の病院における見学実習を行うこととした。平成19年度は8～10月にかけて実施した。 ^⑯	健康科学部では、医療が実践されている現場の実情を見ることにより、医療を必要とする人々の状態や医療従事者の喜び等を知り、学生に4年間の学習への動機付けをする目的で以下の事業を計画している。 1. 地域貢献事業として、浦安市の高齢者、要支援・要介護者に対して健康維持・増進、介護予防教室を開催する。 2. 地域貢献事業として浦安市の幼児・児童を対象とした転倒・骨粗鬆症調査実施 3. 浦安市駅前在宅介護支援センター主催の介護予防教室開催 以上の3事業において、1年次の8月から事業の見学・補助を体験させ幼児・児童、高齢者、要支援者・要介護者と対談・介護を通じふれあい体験を実施する予定。 ^⑮

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (19年1月)	該当なし	該当なし	該当なし
設置計画履行状況 調 査 時 (20年1月)	該当なし	該当なし	該当なし
設置計画履行状況 調 査 時 (21年1月)	(理学療法学科) ○ 早期に実践現場を体験させることについて、全ての学生が確実に体験できるようにするとともに、内容を充実させること。	平成18～20年の3年間は1年生に早期実践現場見学を体験させ、見学内容に基づくフィードバックを半日間実施した。 平成21年からは1年生すべてに病院・クリニック・地域リハビリテーション施設の3施設を各半日間見学し、見学内容に基づくフィードバックを各半日間実施している。これにより1年生全学生が内容の異なる3施設で合計3日間の現場実習とフィードバックを実施することとなる。3日間の見学とフィードバック終了後は3施設の見学についてレポートを提出し個別面談時にその理解度を確認し、理解が不十分な場合は補足説明を実施する。今後は、「早期体験実習」の授業科目を新設することを検討する。^{②)}	
	○ C A P 制について、年間履修単位数の上限を超えた履修が、具体的な基準を定めないまま認められており、現状では機能していないので、単位の実質化の観点から、学生への履修指導体制の充実とC A P 制の適切な運用を行なうこと。	年間履修単位数の上限を36単位から38単位へと見直した。3年間実施した結果、各年次に配当し当該年次に履修すべき卒業に必要な単位が、時間割編成の関係で36単位内で収まらない場合が生じたためである。教職課程等の科目は、上限に含めないこととした。学生へは事務局のガイダンス及び教員による個別履修指導を行い、徹底を図り、混乱せず今年度がスタートした。^{②)}	

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	○ 授業アンケートを組織的に実施するなど、ファカルティ・ディベロップメント（授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究）の一層の推進に努めること。	（１）開学直後に教職員研修会議（通称ＦＤ委員会）を設置し、全体会議と公開授業（２回）を開催した。 （２）学生による授業評価を平成18年後期から実施している。個別教員提出のリフレクションペーパーをめぐる所属長と個人教員との対話を通じて授業効果と教育の質的向上に努力している。授業アンケートの結果は集計・統計し、学生に公表する方法を検討している。 （３）大学評価学位授与機構などが主催するＦＤ研修会に関係者が参加して得た知見を学内に導入した。山形大学主催の「つばさ」に参加している。 （４）平成20年11月、全教員を対象に「ＦＤアンケート」を実施、結果を集計し、全50ページの小冊子に編集した。 （５）小田隆治教授（山形大学）による講演会と自由討議を開催した。 （６）21年度は年間を通じて、全学部全学科が、公開授業を実施する予定である。②	
	○ 任期付教員の人事について、評価基準及び契約内容を明確にするなど、公平かつ透明に行うこと。	平成21年度より教授を任期制から除外し、定年規程のみ適用する。准教授・講師・助教については、契約更改に係る評価基準を定め、次回契約更改時から適用することとした。契約時には、人事・服務関係の事項を具体的に記載した契約書を交わし、関係規定を添付することとした。（別紙）②	

7 その他全般的事項

芸術学部 美術学科（19）

<日本文化芸術学部—日本文化芸術学科>

（1）設置計画変更事項等

認 可 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 情報の提供 大学理念、教育研修活動の状況、財務等の情報をインターネット、大学案内、研究紀要、作品集等によって関係者、地元及び広く一般に提供する。 ② 特別教室として情報処理科目、外国語科目の教室を各1室設置する。 ③ 体育館の室内は、バスケットボール、バレーボール、卓球、新体操、体操、トランポリン、剣道などのできるアリーナとし、スポーツ実習の授業や日常の稽古で柔道を行う柔道場も兼ねるよう整備する。	① 設置認可後、ホームページを開設し、大学理念、教育課程、教員予定者の業績、学生募集の内容などを公開した。以降、上記に係る詳しい情報を追加掲載している。 平成20年度からは、開学理念、学長挨拶、新学科・新コース（健康科学部 整復医療・トレーナー学科・芸術学部美術学科こころアートコース）紹介ページ、在学生向けの学内WEB掲示板（休講・講義課題掲示・お知らせ・イベント情報）、履修登録・時間割閲覧WEBシステムを追加掲載した。また、各学部・学科ごとに最新ページ更新を行い、学内の最新情報を掲載している。 ② 英語の授業は20名のクラス編成で行なっており、開学当初計画していた大規模な語学学習室は使用していない。今後は、授業の形態に見合った語学学習室の整備を検討する。 ③ スポーツ設備のうち、バスケットコート、テニスコート、バレーコート、サッカーゴールをグラウンドに整備した。体育館では、柔道、剣道、新体操、体操などができるが、それ以外については、学生の意向を聞きながら、設備を整備する。また、平成19年度の健康科学部整復医療・トレーナー学科の開設に合わせて、トレーニングルームを設置・整備した。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

学長の下に組織する教職員研修会議を設置。授業方法の改善や教育内容の充実など教員の教育力の向上に努める。
平成18年5月設置。※別添1「教職員研修に関する規程」

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

第1回 平成18年7月27日（教員7名、事務職員2名）

第2回 平成18年10月19日（教員9名、事務職員4名）

第3回 平成20年11月6日（教員4名、事務職員1名）

第4回 平成21年3月4日（教員6名、事務職員2名）

c 委員会の審議事項等

基本的な方針と具体的な取り組みを検討。

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 授業評価アンケート
- ・ 教員相互の授業参観
- ・ 全教員対象の研修会

b 実施方法

- ・ 授業評価アンケートは、前期（7月）と後期（1～2月）の年2回実施。
- ・ 教員相互の授業参加及び全教員対象の研修会については、テーマごとに担当教員が公開授業及び講習を実施。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 平成18年11月「情報処理演習」（教養教育）公開授業（約30名参加）
- ・ 平成18年12月「日常生活活動実習」（理学療法学科）公開授業（約30名参加）
- ・ 平成19年7月「メンタルヘルスの基礎知識と学生対応ガイダンス」をテーマとした研修会（約50名参加）
- ・ 平成19年11月「学生との対話展開の実践研修」をテーマとした研修会（約30名参加）
- ・ 平成20年11月全教員を対象に「FDアンケート」を実施、平成21年3月「FDアンケート」報告会
- ・ 平成21年5月小田隆治教授（山形大学）による講演会と自由討議を開催

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学生の意見に対して授業科目ごとに対応策を検討し、授業の改善を図っている。

授業参観及び研修会の後、討論会を実施。

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
(別添3のとおり)

② 自己点検・評価報告書

- a 公表(予定)時期
 - ・平成22年度 公表
- b 公表方法
 - ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成24年度に評価機関(財)日本高等教育評価機構の評価を受けるべく、学内で検討中

- (1) 平成18年4月に自己評価委員会(委員長:副学長)を設置した。5月に第1回委員会を開催し、具体的な取り組みについて検討した。
- (2) 平成18年7月から12月まで自己評価委員会を4回開催し、自己評価実施の進め方について検討した。自己評価活動の一つとして、平成19年2月、授業アンケートと併せて、学校生活についてのアンケート調査を行った。
- (3) 平成19年7月自己評価委員会を開催し、前年度に引き続き自己評価の進め方について検討した。
- (4) 平成20年10月から教育研究の部会において、各学科ごとに点検・評価報告の原稿作り作業を開始した。

(4) 情報提供に関する事項

① 設置認可申請書

- a ホームページに公表の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)
- b 公表時期(未公表の場合は予定時期) (平成19年 5月 20日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置認可申請書」掲載ページへのリンク
(☒ 承諾する ・ ☐ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.ryotokuji-u.ac.jp>)

② 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)
- b 公表時期(未公表の場合は予定時期) (平成20年 5月 1日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(☒ 承諾する ・ ☐ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.ryotokuji-u.ac.jp>)

<健康科学部 理学療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 卒業要件単位数 128単位 必修科目105単位, 選択科目23単位 ② 情報の提供 大学理念、教育研修活動の状況、財務等の情報をインターネット、大学案内、研究紀要、作品集等によって関係者、地元及び広く一般に提供する。 ③ 特別教室として情報処理科目、外国語科目の教室を各1室設置する。 ④ 体育館の室内は、バスケットボール、バレーボール、卓球、新体操、体操、トランポリン、剣道などのできるアリーナとし、スポーツ実習の授業や日常の稽古で柔道を行う柔道場も兼ねるよう整備する。	① 留意事項に従い、選択科目(2科目・2単位)を必修科目(2科目・2単位)に変更。(別添2「授業科目新旧対照表」参照) ② 設置認可後、ホームページを開設し、大学理念、教育課程、教員予定者の業績、学生募集の内容などを公開した。以降、上記に係る詳しい情報を追加掲載している。 平成20年度からは、開学理念、学長挨拶、新学科・新コース(健康科学部 整復医療・トレーナー学科・芸術学部美術学科こころアートコース)紹介ページ、在学生向けの学内WEB掲示板(休講・講義課題掲示・お知らせ・イベント情報)、履修登録・時間割閲覧WEBシステムを追加掲載した。また、各学部・学科ごとに最新ページ更新を行い、学内の最新情報を掲載している。 ③ 英語の授業は20名のクラス編成で行なっており、開学当初計画していた大規模な語学学習室は使用していない。今後は、授業の形態に見合った語学学習室の整備を検討する。 ④ スポーツ設備のうち、バスケットコート、テニスコート、バレーコート、サッカーゴールをグラウンドに整備した。体育館では、柔道、剣道、新体操、体操などができるが、それ以外については、学生の意向を聞きながら、設備を整備する。また、平成19年度の健康科学部整復医療・トレーナー学科の開設に合わせて、トレーニングルームを設置・整備した。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

学長の下に組織する教職員研修会議を設置。授業方法の改善や教育内容の充実など教員の教育力の向上に努める。
平成18年5月設置。※別添1「教職員研修に関する規程」

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

第1回 平成18年7月27日（教員7名、事務職員2名）

第2回 平成18年10月19日（教員9名、事務職員4名）

第3回 平成20年11月6日（教員4名、事務職員1名）

第4回 平成21年3月4日（教員6名、事務職員2名）

c 委員会の審議事項等

基本的な方針と具体的な取り組みを検討。

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 授業評価アンケート
- ・ 教員相互の授業参観
- ・ 全教員対象の研修会

b 実施方法

- ・ 授業評価アンケートは、前期（7月）と後期（1～2月）の年2回実施。
- ・ 教員相互の授業参加及び全教員対象の研修会については、テーマごとに担当教員が公開授業及び講習を実施。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 平成18年11月「情報処理演習」（教養教育）公開授業（約30名参加）
- ・ 平成18年12月「日常生活活動実習」（理学療法学科）公開授業（約30名参加）
- ・ 平成19年7月「メンタルヘルスの基礎知識と学生対応ガイダンス」をテーマとした研修会（約50名参加）
- ・ 平成19年11月「学生との対話展開の実践研修」をテーマとした研修会（約30名参加）
- ・ 平成20年11月全教員を対象に「FDアンケート」を実施、平成21年3月「FDアンケート」報告会
- ・ 平成21年5月小田隆治教授（山形大学）による講演会と自由討議を開催

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学生の意見に対して授業科目ごとに対応策を検討し、授業の改善を図っている。

授業参観及び研修会の後、討論会を実施。

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
(別添3のとおり)

② 自己点検・評価報告書

- a 公表(予定)時期
 - ・平成22年度 公表
- b 公表方法
 - ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成24年度に評価機関(財)日本高等教育評価機構の評価を受けるべく、学内で検討中

- (1) 平成18年4月に自己評価委員会(委員長:副学長)を設置した。5月に第1回委員会を開催し、具体的な取り組みについて検討した。
- (2) 平成18年7月から12月まで自己評価委員会を4回開催し、自己評価実施の進め方について検討した。自己評価活動の一つとして、平成19年2月、授業アンケートと併せて、学校生活についてのアンケート調査を行った。
- (3) 平成19年7月自己評価委員会を開催し、前年度に引き続き自己評価の進め方について検討した。
- (4) 平成20年10月から教育研究の部会において、各学科ごとに点検・評価報告の原稿作り作業を開始した。

(4) 情報提供に関する事項

① 設置認可申請書

- a ホームページに公表の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)
- b 公表時期(未公表の場合は予定時期) (平成19年 5月 20日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置認可申請書」掲載ページへのリンク
(☒ 承諾する ・ ☐ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.ryotokuji-u.ac.jp>)

② 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)
- b 公表時期(未公表の場合は予定時期) (平成20年 5月 1日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(☒ 承諾する ・ ☐ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.ryotokuji-u.ac.jp>)

別添 1

了徳寺大学 教職員研修に関する規程

平成18年 6月14日
了徳寺大学規則 第16号

(目的)

第1条 この規程は、了徳寺大学（以下「大学」という。）における教職員の研修に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(研修及び研究の実施)

第2条 大学における教育内容の充実、授業方法の改善など教員の教育力の向上を図るため、並びに非教育系職員の能力開発を行うため、組織的な研修及び研究（以下「研修等」という。）を毎年度計画的に行うものとする。

(実施の決定)

第3条 研修等の実施については、理事長の承認を得て、学長が決定する。

(教職員研修会議)

第4条 研修等の企画及び実施に関し必要な事項を審議するとともに、第2条に定める研修等の運営にあたるため、教職員研修会議（以下「会議」という。）を設置する。

2 会議は、副学長及び各学科、教養教育センター、医学教育センターが推薦する教員各1名並びに事務局長で組織する。

3 前項のうち副学長及び事務局長を除く構成員は、学長が任命するものとし、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 会務を統括するため会議に議長を置き、副学長をもって充てる。議長に事故あるときは、議長があらかじめ定めた構成員が議長の職務を代行する。

5 会議は、次の各号に掲げるとき議長が招集する。

- 1) 議長が必要と認めたとき
- 2) 構成員の3分の2以上の者から要請があったとき
- 3) 理事長又は学長から諮問があったとき

6 会議の運営に関し必要な事項は、構成員の同意を得て議長が別に定める。

(会議の庶務)

第5条 会議の庶務は、事務局総務課において処理する。

附 則

- 1 この規程は、公布の日から施行し、平成18年4月1日から適用する。
- 2 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

別添2

<健康科学部理学療法学科>

新旧対照表

授 業 科 目 の 名 称		配当年次	旧			新			履修方法及び卒業要件
			単位数又は時間数			単位数又は時間数			
			必修	選択	自由	必修	選択	自由	
教 養 科 目									
人間と文化	日本近代文化史	1・2	4			4			12単位以上
	西洋文化史	1・2・3・4		2			2		
	日本武道文化論	1・2	4			4			
	比較文化論	1・2・3・4		2			2		
	言葉と文化	1・2・3・4		2			2		
	宗教と文化	1・2・3・4		2			2		
	環境と芸術	1・2・3・4		2			2		
人間の 本質 と尊厳	心理学	1・2	2			2			4単位以上
	人と法	1・2・3・4		2			2		
	生命倫理	1・2・3	2			2			
	人間の性と健康	1・2・3・4		2			2		
人とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーション	1・2・3	1			1			5単位以上
	情報処理	1・2	1			1			
	情報処理演習	1・2	1			1			
	英語ⅠA（読解中心）	1・2	1			1			
	英語ⅠB（表現中心）	1・2	1			1			
	英語ⅡA（読解中心）	1・2・3・4		1			1		
	英語ⅡB（表現中心）	1・2・3・4		1			1		
	中国語入門	1・2・3・4		1			1		
	朝鮮語入門	1・2・3・4		1			1		
人間と環境	現代生物学	1・2・3・4		2			2		5単位以上
	現代物理学	1・2・3・4		2			2		
	地球環境論	1・2・3	1			1			
	地域社会論	1・2・3・4		1			1		
	社会福祉論	1・2・3・4		2			2		
	国際関係論	1・2・3・4		2			2		
人間と活動	スポーツ理論と実習Ⅰ	1・2・3・4		1			1		2単位以上
	スポーツ理論と実習Ⅱ	1・2・3・4		1			1		
	ボランティア活動	1・2・3・4		1			1		
	芸術実技入門	1・2・3・4		1			1		
									28単位以上

授 業 科 目 の 名 称		配当年次	旧			新			履修方法及び卒業要件
			単位数又は時間数			単位数又は時間数			
			必修	選択	自由	必修	選択	自由	
基 礎 ・ 臨 床 医 学 科 目									
人体の構造と機能及び心身の発達	生化学	1		2			2		15単位以上
	人間発達学	1	2			2			
	解剖学Ⅰ	1	2			2			
	解剖学Ⅱ	1	2			2			
	解剖学実習	2	2			2			
	生理学Ⅰ	1	2			2			
	生理学Ⅱ	1	2			2			
	生理学実習	2	1			1			
	臨床心理学	2	2			2			
	薬理学	2		1			1		
	微生物学・免疫学	2		2			2		
	臨床検査概論	3		1			1		
	認知行動科学	3		1			1		
疾病障害とリハビリテーション	病理学	2	1			1			18単位以上
	病態生理学	3	2			2			
	内科学	2	4			4			
	外科学	3		2			2		
	整形外科Ⅰ	2	2			2			
	整形外科Ⅱ	3		2			2		
	神経内科学	3	4			4			
	精神医学	2	2			2			
	小児科学	2		1			1		
	老年医学	2		1		1			
	リハビリテーション医学	1	2			2			
	健康と社会	社会保障概論	2		2			2	
救急法		1	1			1			
ケアマネジメント論		2	1			1			
衛生学・公衆衛生学		2		1			1		
									42単位以上

授 業 科 目 の 名 称		配当年次	旧			新			履修方法及び卒業要件
			単位数又は時間数			単位数又は時間数			
			必修	選択	自由	必修	選択	自由	
理 学 療 法 専 門 科 目									
基礎理学療法学	運動学	1	1			1			7単位以上
	運動学実習	2	1			1			
	臨床運動学実習	3	1			1			
	理学療法学概論	1	1			1			
	理学療法特講Ⅰ（医学英語論文）	3		1			1		
	理学療法学研究法特論	3		1			1		
	日常生活活動学	1	1			1			
	日常生活活動学実習	1	1			1			
理学療法評価学	理学療法評価学	2	2			2			5単位以上
	機能能力診断学演習	2	1			1			
	神経診断学	2	1			1			
	生活障害診断学	2	1			1			
理学療法治療学	基礎運動療法学	1	1			1			19単位以上
	基礎運動療法学演習	1	1			1			
	応用運動療法学	3	1			1			
	物理療法学	2	1			1			
	物理療法学実習	3	1			1			
	義肢装具学	2	2			2			
	義肢装具学実習	3	1			1			
	整形外科理学療法学	2	1			1			
	整形外科理学療法学実習	2	1			1			
	整形外科理学療法学演習	3		1			1		
	神経系障害理学療法学	2	1			1			
	神経系障害理学療法学実習	2	1			1			
	神経系障害理学療法学演習	3		1			1		
	内部障害理学療法学	3	1			1			
	内部障害理学療法学実習	3	1			1			
	発達障害理学療法学	3	1			1			
	発達障害理学療法学実習	3	1			1			
	スポーツ理学療法学演習	3		1			1		
	老年期障害理学療法学演習	3		1			1		
地域理学療法学	地域リハビリテーション概論	2	1			1			4単位以上
	地域リハビリテーション理学療法学	2	1			1			
	生活環境論	2	2			2			
	理学療法カウンセリング	2		1			1		

授 業 科 目 の 名 称		配当年次	旧			新			履修方法及び卒業要件
			単位数又は時間数			単位数又は時間数			
			必修	選択	自由	必修	選択	自由	
応用理学療法学	理学療法治療学演習	3	1			1			5単位以上
	インタープロフェッショナル演習	4		1			1		
	理学療法特講Ⅱ	4	1			1			
	理学療法管理経営学	4		1		1			
	卒業課題研究	4	2			2			
臨床実習	臨床教育実習Ⅰ（3年次）	3	3			3			18単位以上
	臨床教育実習Ⅰ（3年次発表）	3							
	臨床教育実習Ⅱ前期（4年次）	4	10			10			
	臨床教育実習Ⅱ前期（4年次発表）	4							
	臨床教育実習Ⅱ後期（4年次）	4	5			5			
	臨床教育実習Ⅱ後期（4年次発表）	4							
58単位以上									
128単位以上									

別添 3 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

新たな日本文化芸術を創造し、それを世界に向けて発信し、後世に継承していくための研究・教育を目的として日本文化芸術学部を、21世紀の来るべき超高齢社会に対応した理学療法学の研究・教育を目的として健康科学部を設置した。平成18年4月開設以来、この目的に向かい、計画にそって教育研究を実施している。

1 教育の基本理念及びその達成状況

本学において、教養教育による文化的な人格の形成と専門教育による専門能力の開発を体系的に行うことにより、①新たな伝統となるべき日本の文化芸術の担い手となる専門職の育成、②超高齢社会、特に中高齢者の障害回復、健康増進等に視点を置いた研究開発と臨床実践できる専門職の育成、を教育の基本理念として発足した。両学部とも教育課程を計画に従い学年進行させており、学生は、期待する人材像に向けて成長しつつある。芸術学部では、予定していた教職課程及び学芸員資格課程の認定を受け、教職課程を30人、学芸員課程を35人の学生が履修している。

2 研究活動の計画及びその達成状況

- (1) 新たな日本文化芸術創造の基礎研究組織として「日本文化芸術学会」の結成を計画した。開設後検討を重ねた結果、平成20年度に「芸術文化研究所」を設置した。京都市内の文化芸術遺産を調査取材し、成果を『文字の意匠』として発刊した。『中国印史概説』も研究所から出版した。平成21年度以降も研究を重ねる予定である。
- (2) 両学部共同で「医療と芸術」の研究を実施するため「芸術療法研究学会」の結成を計画した。開設後の平成18年7月に「芸術と健康研究会」を発足させた。芸術学部教員13人、健康科学部教員11人が研究に従事している。現在まで「芸術の癒し効果の科学的検証」他17件の研究論文を発表した。第1回・第3回学園祭で本研究会主催のシンポジウムを開催した。
- (3) 健康科学部では、高齢社会が進展する中、理学療法分野での、特に中高齢者の障害回復、疾病の予防と健康増進に視点を置いた研究を行うことを計画した。平成18年度から学科共同研究として「親子と骨密度とADL関係」他5件の研究を行っている。

3 社会貢献活動の計画及びその達成状況

両学部とも地域の生活に密着した分野であり、本学の教育研究機能の展開にあたっては地域との連携を密にし、その成果を積極的に地域に提供し、青少年の健全育成や市民の生涯学習に役立てることを計画した。地域連携委員会を中心に学内公開講座、浦安市主催市民講座への講師派遣、学生による魚市場の壁画制作、スケッチコンクール、浦安市美術展に出品、キッズ柔道、チャリティコンサート、浦安市との共催による小学生・高齢者体力測定と健康相談会、学生ボランティアの富士山清掃登山等、多岐にわたり社会貢献活動を実施している。21年度から浦安市民大学に協力参加する。

4 国際交流の計画及びその達成状況

両学部とも、国際社会において学術文化交流を展開できる人材の育成を計画している。現在まで、学生が参加して JICA ヨルダン使節団来学、タイ国カセサート大学訪問、日独スポーツ少年団来学による交流を行い、教員による台湾元智大学との交流、中国遼寧大学との学術交流を行った。今後は、学生参加の企画を多く実施する。

5 総括評価・所見

日本文化芸術学部は、教育面で、計画段階の見込みに反し、初年度、大幅な入学定員割れを生じた。回復不可能と判断して定員を縮減し、「芸術学部」に名称変更した。平成 20 年度、新たな志望者層を受け入れるため「こころアート」コースを教育課程に追加した。学生数は計画を下回ることとなったが、在学学生は少人数ながら期待する人材像に向かって授業科目を履修し、日々勉学に励んでいる。少人数教育により丁寧な教育指導を行えている。学年進行中、教授を中心に教員の交代を生じたが、公募で優秀な教授を補充し、一層、教育の充実が図られることとなった。経験豊富な教授の就任は、若手教員にも良い刺激を与えている。学生募集活動の努力も空しく平成 21 年度生が定員割れとなったことを反省している。研究面では、計画した 2 種類の研究活動を軌道に乗せることができた。社会貢献も地域との連携を密にし、要望に応じた貢献活動を行えた。今後も、より充実した活動を実施する。

健康科学部は、教育面で、応募者数が多く定員充足に問題はない。3 年を経過し若干の退学者があったものの、第 1 期生は、3 年次の 3 月に初めての臨床教育実習を経験して逞しさを身に付け、1 年後の国家試験受験に向けて頑張っている。現在 4 年次の実習を始めている。後に続く在学学生も先輩の背中を見て勉学に励んでいる。教員は教授退任等があったものの、若手教員を多数補充して実習指導体制を強化し将来性のある教員組織に充実した。教育は順調に進展している。研究面では、開設時から計画にそった共同研究を実施している。社会貢献活動は、地元浦安市との連携による体力測定・健康相談会に協力するなど計画にそった活動を行っている。

総合して、計画に従い教育研究を進めているものと認識している。